

ヨシナカ新聞

感謝の気持ちを込めて

皆様に愛されながら（？）

新たな気持ちで

東京オリエンピックが開

発行しておりますヨシナカ新聞ですが、16年目に入りました。これまで、面白くないからやめなさいという言葉もなく、暖かく見守ってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

創刊号から先月号までを読み返しますと、作成した当時の事や感じていた思いが昨日の事のように蘇ることに不思議な感覚になりました。転勤になったこと、苦しかったことなども併せて、これは自分の履歴書なのかもしれないなど、そんなことを感じた次第です。

そんなヨシナカ新聞ですが、創刊号からこの号まで弊社のホームページで全号ご覧いただくことができず。拙い新聞ですが、今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

催される（筈だった）2020年を迎えた時、ウイルスが世界中を駆け巡るとは誰も思ってもみなかったと思います。辛い時が続きますが、辺りには春の便りがいっぱい届いています。芽生えとは植物の

芽が出始めること。そして物事が始まること、さざしという意味もあります。そして色んな花が咲き始めています。自然界はそんな気配でいっぱいです。私達も感染には充分気を付けながら、新たな気持ちを芽生えさせ、花を咲かせていきたいですね。

4月号
発行所
株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796



メガネ

もう30年以上前のことですが、『Dr. スランプアラレちゃん』というアニメ番組が好きで、よく観ていました。天真爛漫なアラレちゃん(ロボット)が繰り返るとんでもない出来事の連続に大笑いしていたのですが、そのアラレちゃんがかけていた丸いメガネがとても良く似合っていて、真似したくて伊達メガネをかけてた

りしていました。

今ではしっかり老眼鏡のお世話になり、欠かせなくなったメガネですが、日本のメガネの生産量の約90%が福井県鯖江市で生産されています。

何故、鯖江でメガネ産業が盛んになったかといいますと、増永五左衛門という人が、冬の雪深い中で農業が出来ない時に、家の中で小スペースで作業が出来てお金になるものは

ないかと考えた結果、明治38年にメガネの製造を始めました。彼は弟子を育て、その弟子が独立して弟子を育て、その弟子が独立してまた弟子を育てるという事が繰り返された結果、メガネの一大産地になりました。

増永五左衛門が興した会社は現在も『増永眼鏡』という名前でメーカーとして残っており、東京では台東区、港区、杉並区に販売店があります。

ゴボウ抜きと大根役者

先日、スーパーでゴボウを見た時に、『ゴボウ抜き』という言葉が頭に浮かび、次に言葉の由来が気になりましたので、調べてみました。

ゴボウは抜きにくく大変な作業であることから、抜きにくいものを一気に抜く意味だそう。一度に複数を引っ張り出すのが大変なため、一本一本抜く方法が取られているので、ゴボウを抜く時は、真上に一直線に引っ張って抜く、そんな抜きにくいゴボウを引っ張り抜く作業を、人に例えて「ゴボウ抜き」と言われるようになりました。

それではゴボウと同じように引き抜く作業の必要な大根を使った『大根役者』の語源は何なのか、これも調べてみました。

諸説あるようですが、どのような調理を行ってもめったなことでは食中り（しよくあたり）しないことから、大根はあたることがない。役者が演目や配役でヒットし、人気が出て成功することをあたることと表現することから、役者として当たらない、または当たりのとれないことをかけたとする説が有力のようです。

ステンレス豆知識

鋼(ハガネ)刃物とステンレス刃物

鋼(ハガネ)とはJIS規格で規定された炭素含有量0.6%以上の炭素鋼で工具鋼や刃物鋼などが一般的です。炭素鋼は「Steel(ハガネ)」の頭文字Sと「Kougu(工具)」の頭文字KよりSK

刃物に使用されるステンレス鋼は、焼入れ工程が可能なマルテンサイト系ステンレスが使われます。SUS410やSUS420J2が代表的鋼種ですが、C(カーボン)の含有量を増やしたSUS440C等がありますが、C量が増えるほど韌性(ねばり)が小さくなります。

刃物に使用されるステンレス鋼は、焼入れ工程が可能なマルテンサイト系ステンレスが使われます。SUS410やSUS420J2が代表的鋼種ですが、C(カーボン)の含有量を増やしたSUS440C等がありますが、C量が増えるほど韌性(ねばり)が小さくなります。